



(農業者からのコメント)

私たちアグリ事業部(秋吉台農園)では、にんにく栽培における掘り取りやほぐし作業、除草作業などを中心に、農福連携の一環として作業を委託させていただいております。

利用者の皆さまには、どのような作業にも心を込めて取り組んでいただき、私たちの栽培を力強く支えていただいております。その一つ一つの丁寧な作業が、私たちの農業を前へ進める大きな原動力となっております。改めて、心より感謝申し上げます。今後も、お互いに支え合いながら地域に根差した取り組みを進め、良い連携をさらに発展させていければと考えております。引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

有限会社 大熊工業 山本 勉様

当農園では、アスパラガスや甘藷切苗の施設栽培を中心に行っており、機械化が難しい作業が多く、手作業に頼らざるを得ない状況が続いていました。

なかでも、年に1回、全20棟以上のハウスへ合計40トンを超える堆肥を2~3日で散布する作業は最も負担が大きく、従業員の多くが女性であることから、長年大きな課題となっていました。こうした状況を踏まえ、昨年度より農福連携を活用し、堆肥散布作業を外部へ委託することとしました。当初は不安もありましたが、丁寧に指示を確認しながら、問題なく作業を進めていただくことができました。また、「おためし農福事業」の工賃補助もあり、時間的・経済的な面でも大きな助けとなりました。本年度は補助がない状況でも同様の作業を委託し、今後も継続していく予定です。さらにハウス周辺の除草作業も依頼したことで、手作業の負担軽減につながりました。農福連携は、担い手不足や高齢化が進む農業において、作業量の拡大や収益向上にも寄与する取り組みです。当農園としても、今後も継続的に活用し、障がいがある方々の就労機会の創出や生きがいづくりに貢献していきたいと考えています。

株式会社 エスケイサービス 小早川 慶之様



現代の農業において課題の一つに農家の高齢化による労働力不足や働き手不足があります。

藤村農園においても10月中旬~11月中旬にかけてさつま芋の収穫・玉ねぎ苗の収穫出荷等作業が重なり順調な作業が行えていないのが現状でした。

今回JAを通じて農福連携でのお話を頂き、さつま芋の収穫・簡易選別といった作業をお願いしました。

お陰様で今年の秋は順調な作業を終えることが出来ました。

農福連携を通じて農業の労働不足といった課題解決に期待が出来ると感じました。

株式会社 藤村農園 藤村 敏浩様



(事業者からのコメント)

私たちの事業所では、将来の作業確保を見据え、平成29年から農福連携に取り組み始めました。秋吉台農園のにんにく作業をご紹介いただき、利用者が対応できるかどうかを確認するために、現地での見学と作業体験を行いました。高齢化により屋外作業が難しい利用者にとって、屋内で取り組めるにんにく作業は負担が少なく、非常に適していました。距離の課題については農園側のご協力で解決し、丁寧なご指導もいただいたことで、安心して作業に取り組むことができました。利用者は「ありがとう」と直接声をかけられた経験から自信を深め、良い変化が見られています。今後、農福連携をさらに広げていくためには、企業と福祉事業所との対話が重要であり、まずはできることから挑戦し、改善を重ねていく姿勢が大切だと考えています。

就労継続支援施設 キュアポート

農福連携をきっかけに、利用者が地域の担い手として認識される機会が増えた。単なる「支援される側」ではなく、地域を支える存在としての役割が生まれていると感じる。こういった地域との接点を増やすことが、働く喜びを共有し、地域を支える側としての誇らしい気持ちを実感できる機会の創出につながる。

農業と福祉が、特別な支援関係ではない、対等なパートナーという当たり前の関係を築くことが、社会全体に好循環を生み出すための成功の鍵だと実感している。

就労継続支援B型 ふれんず

農福連携マッチングサイト『あくぶく』からの情報検索が可能です。山口県内の農業者が福祉事業所に委託できる作業を探したり、福祉事業所が受託できる作業を探することができるほか、動画及び静止画で作業マニュアルを公開しています。

〇やまぐち農業労働力確保推進協議会(事務局:JA山口中央会) 電話:083-973-2247



お問い合わせ先

特定非営利活動法人山口県社会就労事業振興センター
山口県山口市大手町9番6号
TEL083-933-1522 FAX083-933-1533



発行元

山口県健康福祉部障害者支援課
山口県山口市滝町1番1号(山口県庁5階)
TEL083-933-2765 FAX083-933-2779

発行年月

2026年3月



農福連携 ガイド

障害福祉サービス事業所向け Ver.Ⅲ

農福連携とは、障害のある人が農業の仕事に参加することで、自信を持ったり、生きがいを感じられるようになる取り組みです。農業の現場も元気になり、経営の力にもつながります。

この活動は、みんなが地域で暮らしながら、それぞれのやり方で社会に参加し、自分らしい力を発揮できる「地域共生社会」をつくることにも役立っています。

